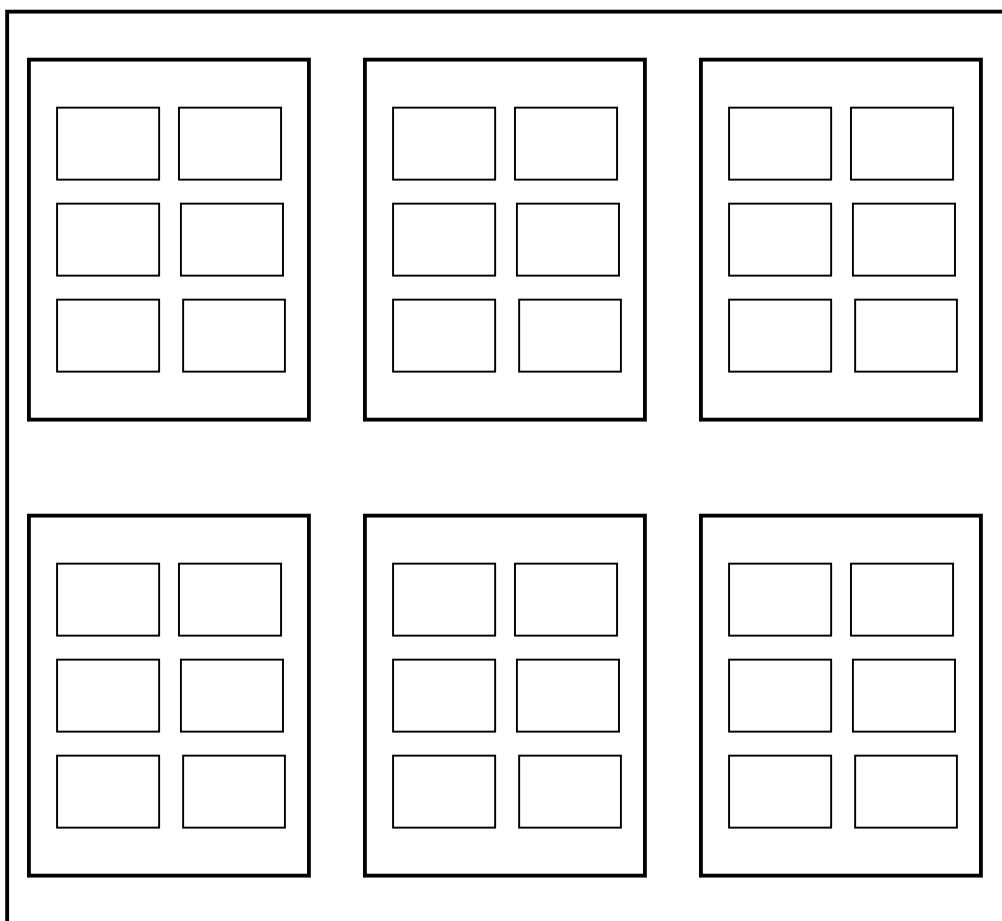


GTB

Proof Maker ユーザーズマニュアル



目次

第一章 お使いになる前に

1 . 動作環境とインストール.....	3
1 - 1 . 推奨動作環境	3
1 - 2 . Proof Maker のインストール手順.....	4
2 . Proof Maker 概要.....	8
2 - 1 . Proof Maker について	8
2 - 2 . Proof Maker で取り扱うファイル	8
2 - 3 . 網点（色版）データファイルの名称規則.....	9
3 . サンプルアプリケーション	11
4 . Windows 基本操作.....	12
4 - 1 . マウスの操作	12
4 - 2 . ウィンドウ操作	14
4 - 3 . リスト操作.....	17

第二章 設定ダイアログ

1 . ダイアログ項目	25
-------------------	----

第三章 操作説明

1 . Proof Maker のオペレーション	37
2 . バッチ処理のオペレーション	40

1 . 概要	40
2 . リファレンス.....	40
3 . 設定ダイアログ	42
4 . フォルダセットの設定	44
5 . HTML によるログファイルの出力.....	58

第一章

お使いになる前に

動作環境とインストール

Proof Maker 概要

Windows の基本操作

1 . 動作環境とインストール

1 - 1 . 推奨動作環境

接続可能 R i p :

スクリーニング後 1 ビット T I F F 出力可能 R I P

入力フォーマット :

TIFF(1bit) 圧縮方式 : LZW, G3, G4, PackBits, 1D Huffman

出力フォーマット :

TIFF コンポジットまたはグレースケール

コンピュータ本体 :

スタンドアローン : P e n t i u m 6 0 0 M h z 以上

メモリ : 2 5 6 M B 以上

ハードディスク : 2 0 G B 以上

O S : WindowsNT サービスパック 5 以上

: Windows2000

1 - 2 . Proof Maker のインストール手順

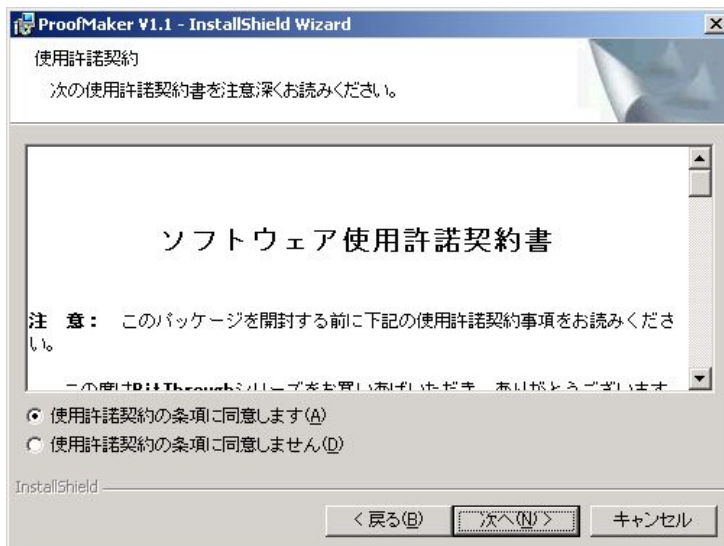
(注意) Proof Maker は、起動前にハードウェアキーが接続されている必要がありますので注意して下さい。接続されていない場合は機能を確認する為のサンプルアプリケーションとなります。



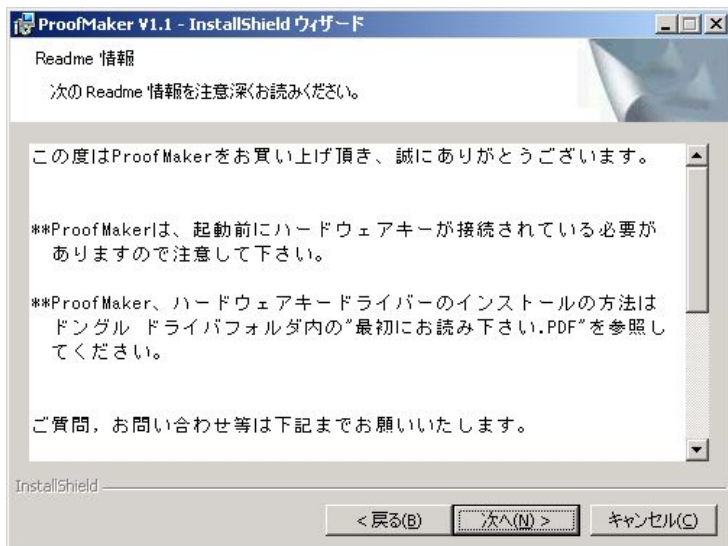
1) C D-ROM内にある「setup.exe」をダブルクリックします。



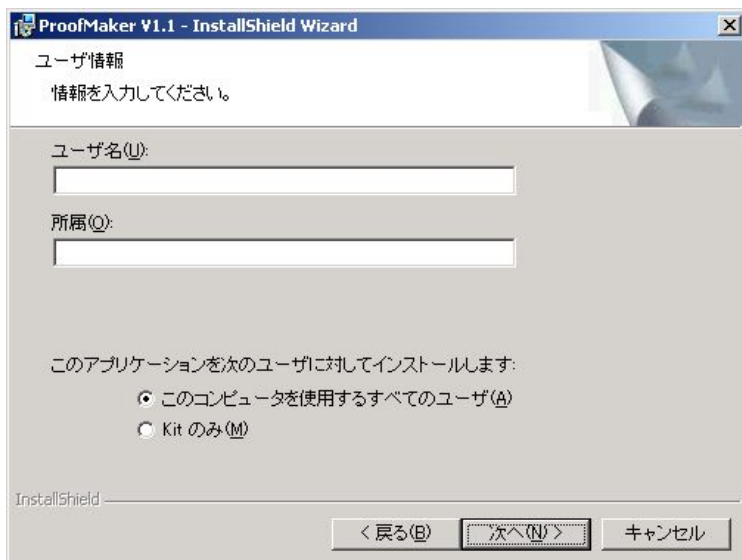
2) インストールを行う製品のセットアップウィザードが起動しますので「次へ(N)」をクリックします。



3) 製品の使用許諾が表示されますのでよくお読みください。同意いただいた場合、本製品のインストールが可能となりますので「次へ(N)」をクリックします。



4) インストールにあたっての注意事項と製造元の情報が表示されます、よくお読みの上「次へ (N)」をクリックします。



5) 名前と所属会社名を入力し、「次へ (N)」をクリックします。



6) インストール先のフォルダを指定します。

変更する場合は「変更(C)...」をクリックして、パスを直接入力するか、ディレクトリを指定します。「次へ(N)」をクリックするとアプリケーションのインストールを開始します。

2 . Proof Maker 概要

2 - 1 . Proof Maker について

Proof Maker は RIP 後の網点データを画像精度やエッジのシャープさ、モアレの問題、処理時間などの要素を考慮し、校正の目的に合わせてデスクリーニング、コンポジットファイルもしくはセパレーションファイルを高速に出力します。



2 - 2 . Proof Maker で取り扱うファイル

(1) 網点ファイル (.tif)

RIP で出力された網点データファイルで、各色成分ごとのファイルが存在します。Proof Maker では同じ原稿名の 1 色成分以上のファイルを同一ファイルとしてデスクリーニングします。複数の特色版も色成分版として取り扱えます。

(2) コンポジットファイル (.tif)

CMYK に分版されていないデータファイルです。Proof Maker でデスクリーニングされた網点ファイルは CMYK コンポジットファイルとして出力されます。

(3) セパレーションファイル (.tif)

色成分ごとに分版されたグレースケールのデータファイルです。Proof Maker でデスクリーニングされた網点ファイルは、入力網点データの色成分ごとのグレースケールファイルとして出力されます。

2 - 3 . 網点（色版）データファイルの名称規則

Proof Maker では、色版と網点ファイルの対応（どの色版がどのファイルなのか）を網点ファイルの名称の一部を参照して行います。

RIP で網点ファイルを出力する時、名称に色版の参照名が付加されます（付加される参照名は RIP の設定により異なります）。

例えば、CMYK で構成された “Page.ps” という PS ファイルを RIP に通すと、Cyan 版は “1PageC00.TIF”、Magenta 版は “1PageM00.TIF”、Yellow 版は “1PageY00.TIF”、Black 版は “1PageK00.TIF” の 4 つの網点ファイルが出力されます。

また、**Proof Maker** では、これら網点ファイルの名称から参照名を除いた時の名称が一致する網点ファイル群を 1 つの原稿として判断しています。

（1）網点ファイル名称の解説

例えば “1PageC00.TIF” の内訳は以下の様になっています。

（RIP の種類や設定によって異なります）

“ 1 ”	- RIP で付加されるページ番号
“ Page ”	- RIP 前のファイルのドキュメント名（ベース名）
“ C ”	- RIP で付加される色版を判別する為の参照名（RIP

の設定や色版

によって異なります）

“ 00 ”	- RIP で付加される履歴番号（2桁）
“.TIF”	- ファイルの拡張子（ファイルのタイプを表します）

(2) **Proof Maker** で原稿の判断ができる網点ファイルの名称規則

ページ番号はなくてもかまいません

ベース名は 1 文字以上

色版の参照名は 1 文字以上で、履歴番号か拡張子の前に必要

履歴番号は 2 文字以内で拡張子の前に必要

ファイルの拡張子は “.TIF” で名称の最後に必要

(3) **Proof Maker** で作成されるコンポジット画像は網点データファイルのドキュメント名に “.TIF” 拡張子のついたファイル名になります。また版毎に出力する場合はドキュメント名の後に色版名がつきます。

例えば

1PageC00.TIF

1PageM00.TIF

1PageY00.TIF

1PageK00.TIF

という網点ファイルからは

1Page.TIF

という名称のコンポジット画像が作られます。版毎に出力した場合は

1PageC.TIF

1PageM.TIF

1PageY.TIF

1PageK.TIF

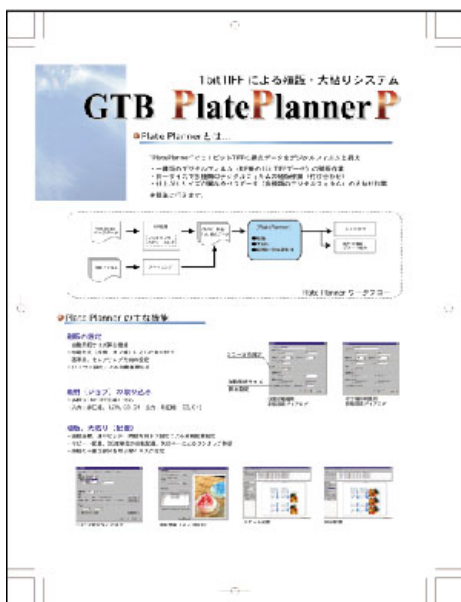
という名称のコンポジット画像になります。

3. サンプルアプリケーション

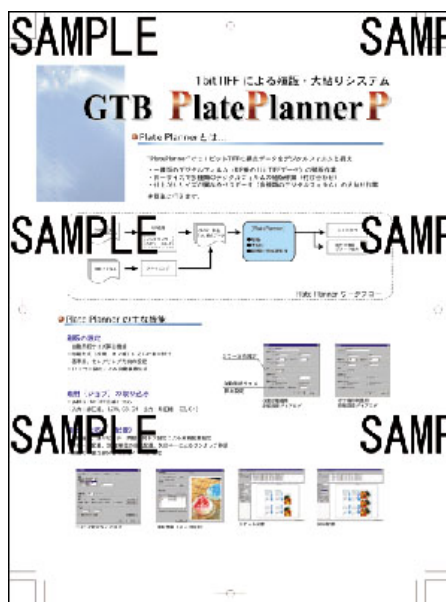
ハードウェアキー(コピーガード)を接続しないで動作させた場合、有効期限内でだけサンプルアプリケーションとして動作します。

サンプルアプリケーションでは、ProofMaker の全機能が使用できますが、作成画像内に “SAMPLE” の文字が埋め込まれます。また本来の処理よりも多くの時間を要します。(“Creating Sample Images” のメッセージがプログレスバーに表示されている時間が加算されます。)

本来の変換結果画像



サンプルアプリケーション時の画像



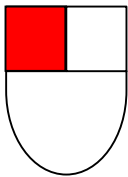
4.Windows 基本操作

4 - 1 . マウスの操作

マウスはコンピュータに指示を与えるための装置です。マウスには右ボタンと左ボタンがあります。マウスの操作には、クリック（左クリックともいいます）、右クリック、ダブルクリック、ドラッグの4種類があります。

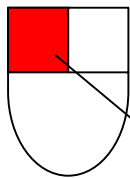
『クリック』

マウスのボタンを1回押してすぐに離すことを、「クリック」といいます。クリックはメニューやボタンを選んだりするときに使います。



『ダブルクリック』

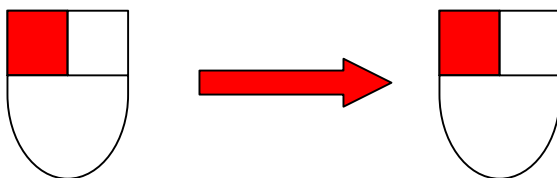
左ボタンをすばやく2回押すことを「ダブルクリック」といいます。ダブルクリックはアプリケーションソフトを起動するときなどに使います。



2回、カチカチと素早くクリック

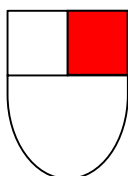
『ドラッグ』

マウスの左ボタンを押したままマウスを動かすことを「ドラッグ」といいます。また、目的の場所までマウスをドラッグした後、マウスのボタンを離すことを「ドロップ」といいます。ドラッグはアイコンやウィンドウの移動や、操作の範囲の選択などに使います。



『右クリック』

マウスの右ボタンを1回押すことを「右クリック」といいます。右クリックは主にメニューを表示させます。

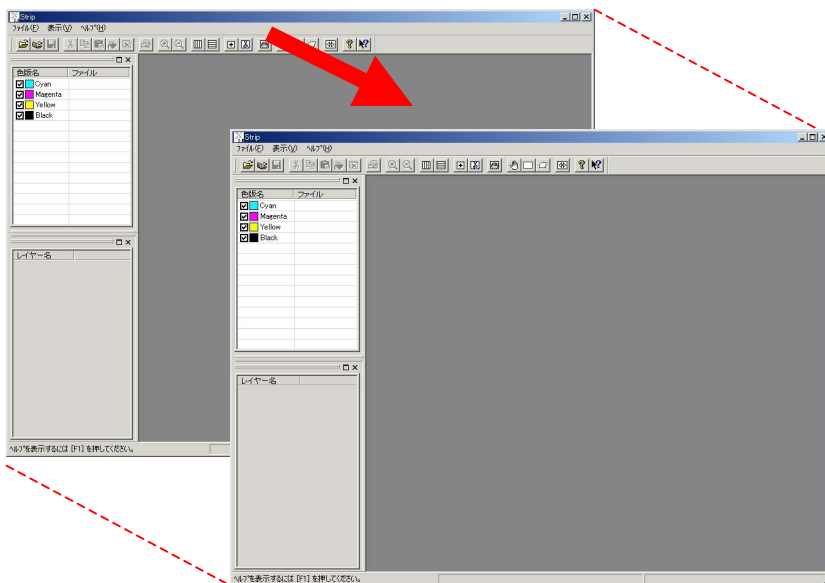


4 - 2 . ウィンドウ操作

ウィンドウは作業を行なう仕事場のようなものです。アプリケーションを起動させるとそのアプリケーションのウィンドウが開かれ、作業ができるようになります。ウィンドウは同時にいくつも開くことができるので、複数の作業を同時進行で行なうことができます。

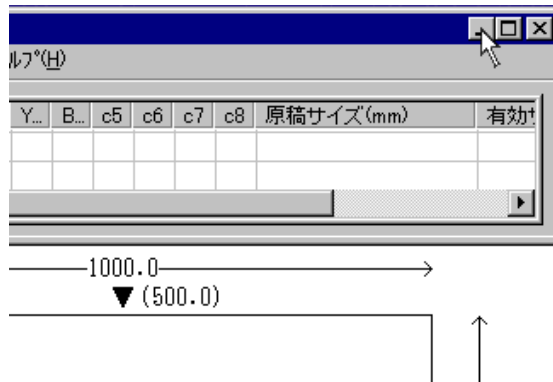
『ウィンドウを移動する』

ウィンドウを移動するときには、そのウィンドウのタイトルバーをドラッグします。移動させたい位置まできたら、マウスのボタンを離します。ウィンドウを移動させても、ウィンドウの大きさは変わりません。



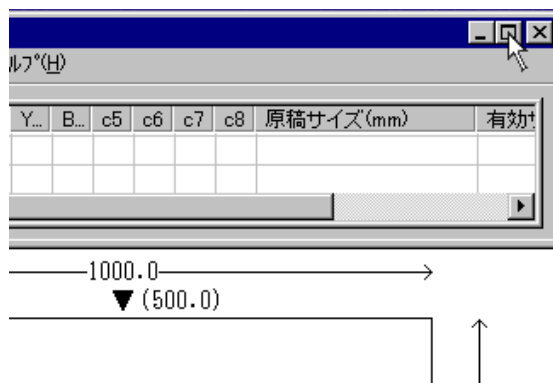
『ウィンドウを最小化する』

タイトルバーの右端にある3つの小さなボタンのうち、左端のボタンをクリックします。すると、ウィンドウはタスクバーに格納され見えなくなります。タスクバーに格納されたウィンドウのボタンをクリックするとふたたび現れます。



『ウィンドウのサイズを変更する』

タイトルバーの右端にある3つの小さなボタンのうち、真ん中のボタンをクリックすると、ウィンドウは画面いっぱいに表示されます。もう一度クリックすると元の大きさに戻ります。またすでに画面いっぱいに表示されている場合、このボタンは元のサイズに戻すボタンになります。



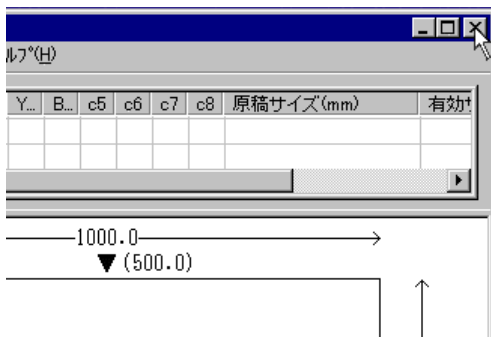
『ウィンドウを好きな大きさに変更する』

ウィンドウの枠の部分にマウスのポインタをあわせると、マウスポインタの形が変化します。この時にマウスをドラッグすると、ウィンドウの大きさが変わります。好きな大きさになったところで、マウスのボタンを離してください。



『アプリケーションソフトを終了する』

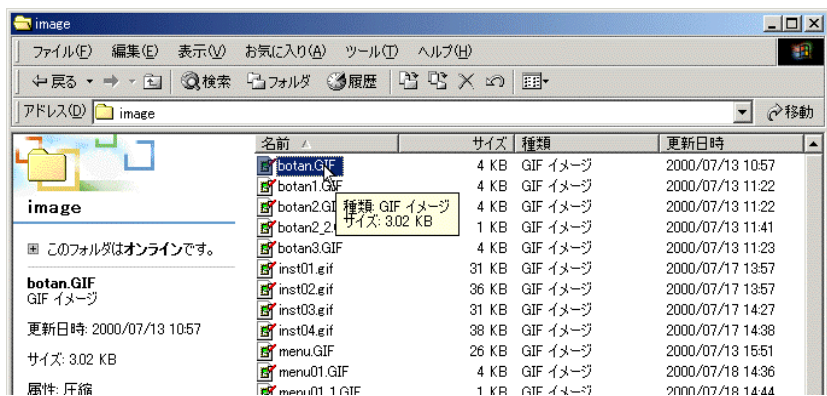
タイトルバーの右端に配置されてるボタンの右側のボタンをクリックします。ウィンドウは消え、アプリケーションは終了したことになります。



4 - 3 . リスト操作

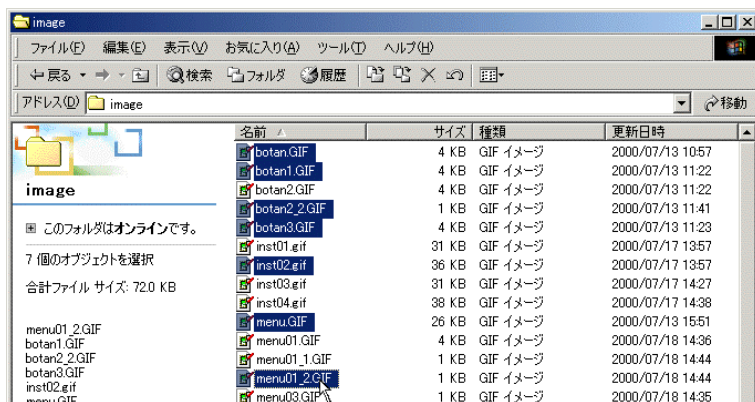
『リストの選択』

リストの一覧のウィンドウで選択したいファイルまたは項目にカーソルを合わせてクリックします。選択した項目の色が変われば、その項目を選択したことになります。



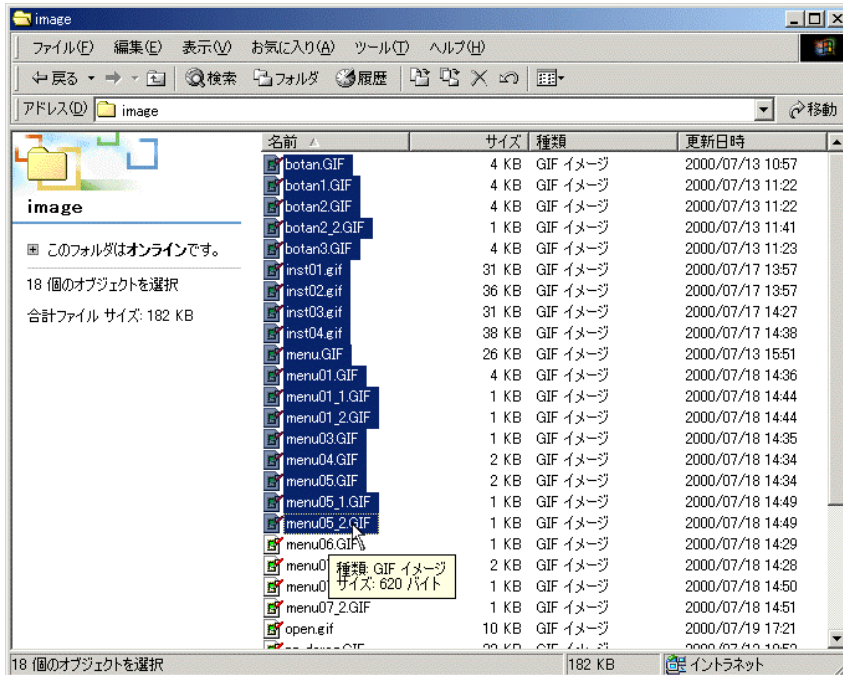
『リストの複数選択』

キーボードの Ctrl キーを押しながらリストを選択すると、複数のファイルまたは項目を選択することができます。



『リストの一括選択』

Shift キーを押しながら、ファイルまたは項目を選択すると、最初に選択されたファイルから、今、選択されたファイルまで一括で選択できます。最初に選択を行っていないときは、リストの最初からの選択になります。



『すべてのリストを選択』

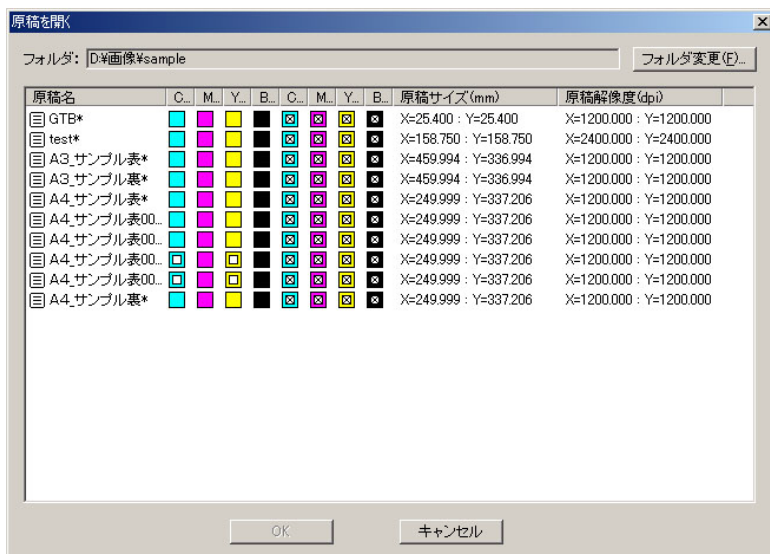
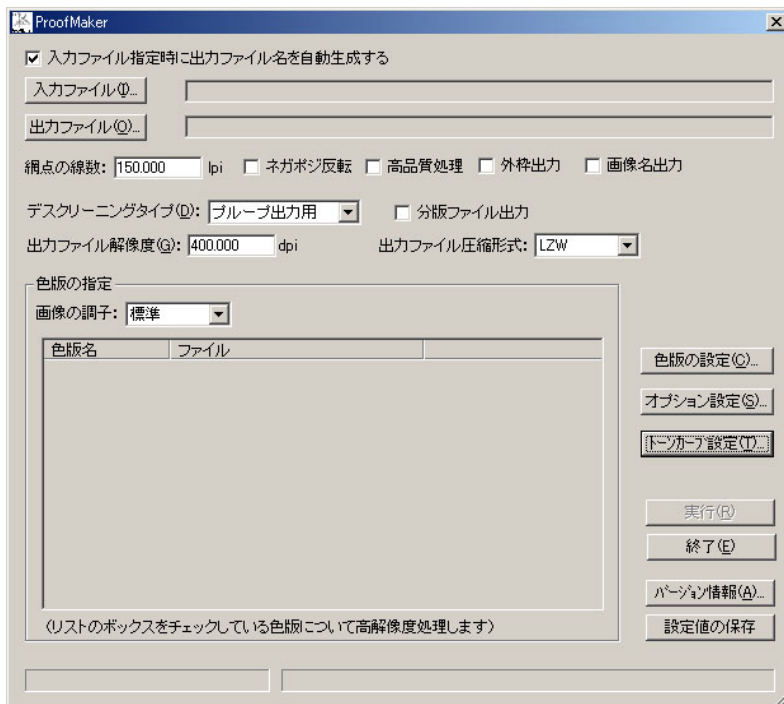
メニューバーの「編集」-「すべてを選択」を選択するとすべての項目を選択することができます。Ctrl キーと「A」を同時に押しても同等の効果が得られます。

第二章

設定ダイアログ

ダイアログ項目

1. ダイアログ項目



『入力ファイル』

入力するファイルを選択します。入力ファイルダイアログには原稿名、色名、原稿サイズ、原稿解像度が表示され、色版が存在する場合はアイコンが塗り潰され、存在しないときにはアイコンの一部が白抜きで表示されます。

『出力ファイル』

出力ファイル名と保存位置を設定します。

『入力ファイル指定時に出力ファイル名を自動生成する』

Proof Maker で自動生成されるコンポジット画像名は網点データファイルのドキュメント名に “.TIF” 拡張子のついたファイル名になります。また版毎に出力する場合はドキュメント名の後に色版名がつきます。

例えば

1PageC00.TIF

1PageM00.TIF

1PageY00.TIF

1PageK00.TIF

という網点ファイルからは

1Page.TIF

という名称のコンポジット画像が作られます。版毎に出力した場合は

1PageC.TIF

1PageM.TIF

1PageY.TIF

1PageK.TIF

という名称のコンポジット画像になります。

『網点の線数』

網点の解像度（インチ当たり）を指定します。

また、画像を硬調にしたければ解像度を大きくし、軟調であれば小さくすることもできます。

『ネガボジ反転』

網点画像がネガである場合に指定します。

『高品質処理』

プルーフ画像上に現れる幾何的パターンの発生を抑え、高品質なプルーフを得たい場合指定します。処理時間は増します。

『外枠出力』 『画像名出力』

プルーフ画像に黒の外枠を付けたり、画像名や網点解像度等の情報を画像の下部に文字部として生成します。

『デスクリーニングタイプ』

プルーフ出力用と画像比較用を選択することができます。プルーフ出力用は精度の高いデスクリーニングを行いますが、処理時間が画像比較用より長くなります。またプルーフ出力用は網点の線数を指定することで、モアレの少ないエッジのシャープなデスクリーニングを行います。網点の線数が設定されていないときは、システム設定値を使って行います。

『分版ファイル出力』

作成したコンポジット画像を分版出力します

『出力ファイル解像度』

出力ファイルの解像度を設定します

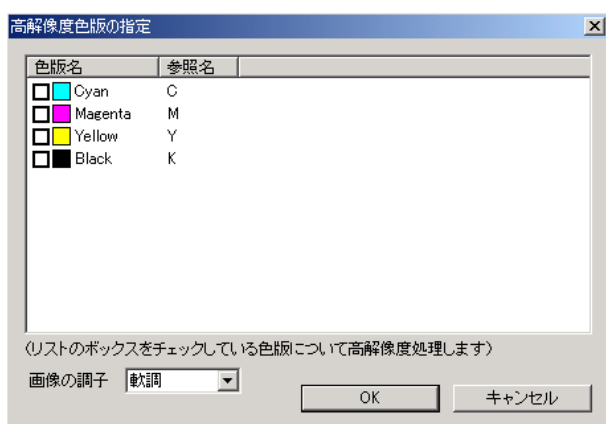
『出力ファイル圧縮形式』

非圧縮、PackBits、LZW から選択します。

『高解像度色版の指定』

プルーフ画像の調子を指定します。エッジを際立たせたい時には「硬調」または「やや硬調」を画像を柔らかい感じにしたい場合は「軟調」または「やや軟調」を選択し、対象となる色版名の横のチェックボックスをONにします。

『画像の調子』



色版毎に画像の調子を以下のいずれかに設定できます。

軟調(強)

軟調

軟調(弱)

標準

硬調(弱)

硬調

硬調(強)

固定調子(5)

固定調子(4)

固定調子(3)

固定調子(2)

固定調子(1)

エッジを際立たせたい時には「硬調(強)」、「硬調」、「硬調(弱)」、画像を柔らかい感じにしたい場合は「軟調強」、「軟調」、「軟調(弱)」を選択します。またサンプリング画素数を固定にする場合は「固定調子(5)」から「固定調子(1)」を選択します。固定調子の数が小さくなるほど硬調になります。

以上の設定をした後、対象となる色版名の横のチェックボックスを ON にします。チェックボックスが OFF または「標準」が選択された場合は【網点の線数】に応じた画像が生成されます。



『色版の設定』

色版の設定を実行すると以下のダイアログが現れます。



・色版名

色版の名称とカラーイメージアイコンを表示します。

この名称は **Proof Maker** がリスト等の項目表示に使用します。

・参照名

色版の参照名を表示します。**Proof Maker** が原稿の登録時に、データファイルと色版の対応を識別するために使用します。

- ・ Cyan

カラー表示用の Cyan 要素の値 (0 ~ 2 5 5) を表示します。

- ・ Magenta

カラー表示用の Magenta 要素の値 (0 ~ 2 5 5) を表示します。

- ・ Yellow

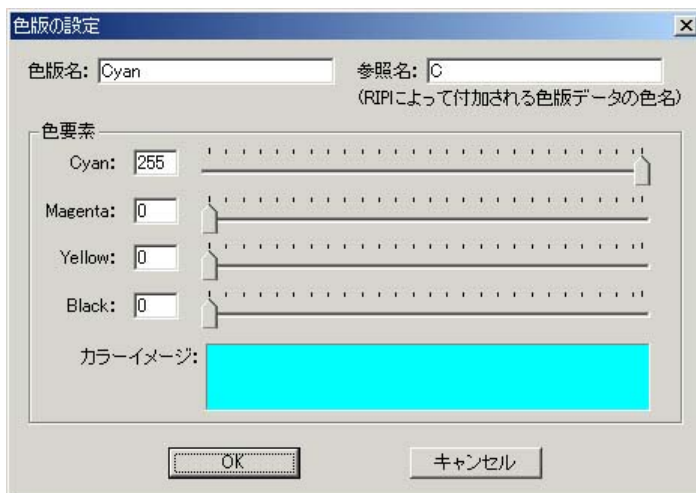
カラー表示用の Yellow 要素の値 (0 ~ 2 5 5) を表示します。

- ・ Black

カラー表示用の Black 要素の値 (0 ~ 2 5 5) を表示します。

- ・ 色版の追加ボタン

システム設定の色版既定値に新たな色版を追加します。



- ・色版名

色版名を表示します。変更する場合は新たな名称を入力します。

この名称はユーザー自身が色版を識別するための名称で、**Proof Maker** がリスト等の項目表示に使用します。

- ・参照名

色版の参照名を表示します。変更する場合は新たな名称を入力します。この名称は**Proof Maker** が色版を識別するための名称で、原稿の登録時に網点（色版）ファイルと色版を対応付けたり、刷版の出力時のファイル名に使用します。

Proof Maker では、参照名の大文字、小文字の区別はしていません。

重要：RIP よって網点（色版）ファイルの名称に付加される色名を入力してください。

- ・Cyan

カラー表示用の Cyan 要素の値（0～255）を表示します。

変更する場合は値を入力するか、スライダーバーを操作します。

- ・Magenta

カラー表示用の Magenta 要素の値（0～255）を表示します。

変更する場合は値を入力するか、スライダーバーを操作します。

- ・Yellow

カラー表示用の Yellow 要素の値（0～255）を表示します。

変更する場合は値を入力するか、スライダーバーを操作します。

- ・Black

カラー表示用の Black 要素の値（0～255）を表示します。

変更する場合は値を入力するか、スライダーバーを操作します。

- ・カラーイメージ

「Cyan」、「Magenta」、「Yellow」、「Black」で設定している値からカラーのイメージをリアルタイムに表示します。

- ・OK ボタン

設定を確定してダイアログを終了します。

- ・キャンセル ボタン

何もせずにダイアログを終了します。

- ・ 色版の設定

システム設定色版既定値に登録している各色版を設定します。

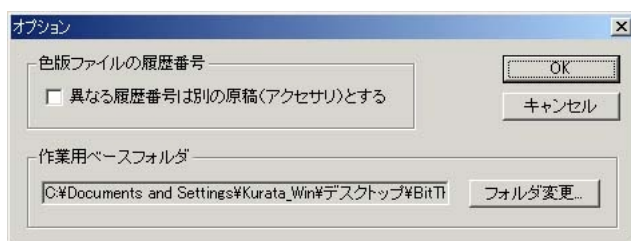
- ・ 色版の削除

システム設定の色版既定値から色版を削除します。

- ・ 登録の初期化

システム設定の色版既定値の登録を初期状態に戻します。

『オプション設定』



“異なる履歴番号は別の原稿とする”をチェックすると、ドキュメント名が同じで、履歴番号のみが異なる場合、別の原稿として扱います。チェックされていない時は同一原稿とみなされ、履歴番号の大きい方のみ扱います。

“作業用ベースフォルダ”にベースとなる作業フォルダの場所を設定します。

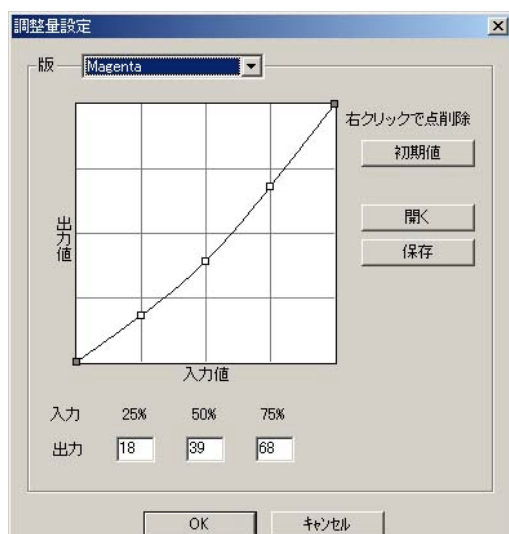
『トーンカーブ設定』

出力時の階調変換を曲線で設定できます。

曲線は入力階調値（デスクリーニング結果）に対する出力値として指定できます。

各値はダイアログ下部の「出力」に直接出力値を入力するか、曲線上のポイントをドラッグして設定します。ポイント以外の曲線上をドラッグまたクリックすると新たなポイントが生成されます。各設定ポイントはマウスの右クリックで削除できます。

トーンカーブを設定後「OK」により変換量が確定され、「キャンセル」では設定が無効となり前回の設定値が保存されます。



詳細は第三章「4. フォルダセットの設定」の【トーンカーブ】を参照して下さい。

『実行』

処理を実行します

『終了』

アプリケーションを終了します。

第三章

操作説明

Proof Maker のオペレーション

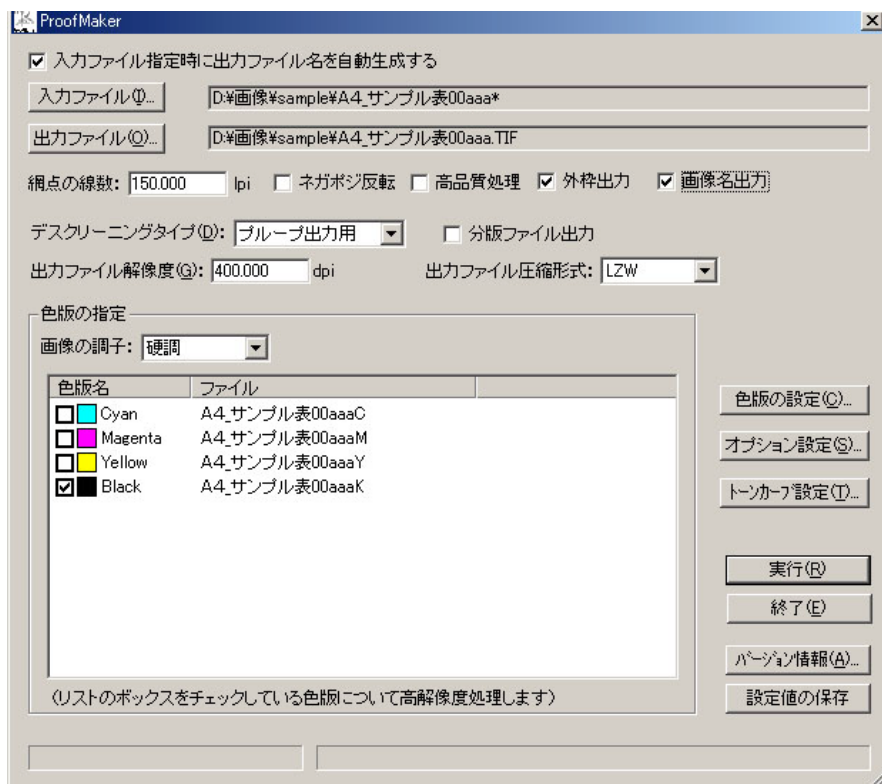
バッチ処理のオペレーション

1 . Proof Maker のオペレーション

Proof Maker のオペレーションについて説明します。

1) メニューから「ProofMaker.exe」のアイコンをダブルクリックします。

Proof Maker が起動し、設定ダイアログが表示されます。



2) “ 入力ファイルボタン ” でデスクリーニングしたい原稿のあるフォルダを設定し、原稿を選択してOKをします。

3) “入力ファイル指定時に出力ファイル名を自動生成する”がチェックされていると自動的に出力ファイル名が設定されます。自分で設定したい場合はチェックマークをはずして“出力ファイル”設定ボタンでファイル名を設定します。

4) “網点線数”を設定します。インチ当たりの網点解像度で、例えば2400 dpiの網点画像に150線の網点線数を設定します。

5) “ネガポジ反転”は、網点画像がネガで作成されている場合にチェックマークをセットします。ポジのプルーフ画像が生成できます。

6) “高品質処理”は、プルーフ画像上に現れる不要な幾何パターンを防ぎ、高品質な画像を得たい場合に選択します。但し、選択しない場合に比べて処理時間がかかります。(1.5倍程度を目安として下さい。)このとき墨版のスクリーン角度(45度かそれ以外)を指定します。

7) “外枠出力”が指定されるとプルーフ画像に黒の外枠を付けます。

8) “画像名出力”が指定されるとプルーフ画像の下部に元画像名(版名も)、出力画像名、作成日時、網点の線数、出力ファイル解像度、高品質指定の有無(有の場合のみ“High Q”の文字が付加)を出力します。

9) “デスクリーニングタイプ”を、プルーフ出力用、画像比較用どちらか選択します。

10) “分版ファイル出力”を、プルーフ出力用、画像比較用どちらか選択します。プルーフ出力用を選択した場合、スクリーン線数を入力することができます。設定しない場合は、システム設定値で処理されます。

11) “出力解像度” “出力ファイル圧縮形式”を設定します。

12) “実行ボタン”で処理を開始します。

13) “終了ボタン”でアプリケーションを終了します。

*その他の設定については、前章を参照してください。

2 . バッチ処理のオペレーション

1 . 概要

バッチ処理モジュールは入力フォルダを一定間隔でチェックし、新しい素材画像が入っていれば自動的にブルーフ画像を生成し、出力フォルダに保存します。サーバーマシンをひとつ用意すれば、複数のクライアントマシンからサーバーの能力を利用して一括処理を行うことができます。

2 . リファレンス

用語説明

【フォルダセット】

入力フォルダ、出力フォルダなどのフォルダの組み合わせと、それに付随するプレビュー解像度などのパラメータをまとめてフォルダセットと呼びます。

基本画面

起動時に開かれる基本画面で、現在の処理状況が表示されます。

基本画面



【実行中のファイル】

現在プレビュー作成処理されているファイル名とそのフォルダセット名が表示されます。

【待機中のファイル】

入力フォルダに入っていたファイルのうち未処理のものが表示されます。表示されているファイル名をクリックすると入力フォルダ、出力フォルダ、処理済ファイルの移動先などが「情報」枠に表示されます。

【処理済ファイル】

入力フォルダに入っていたファイルのうち、プレビュー作成処理の終了したファイルが表示されます。表示されているファイル名をクリックすると入力フォルダ、出力フォルダ、処理済ファイルの移動先などが「情報」枠に表示されます。

【エラーファイル】

何らかの原因で処理ができなかったものが表示されます。表示されているファイル名をクリックするとエラー原因の簡単な説明が「情報」枠に表示されます。

【一時停止・実行ボタン】

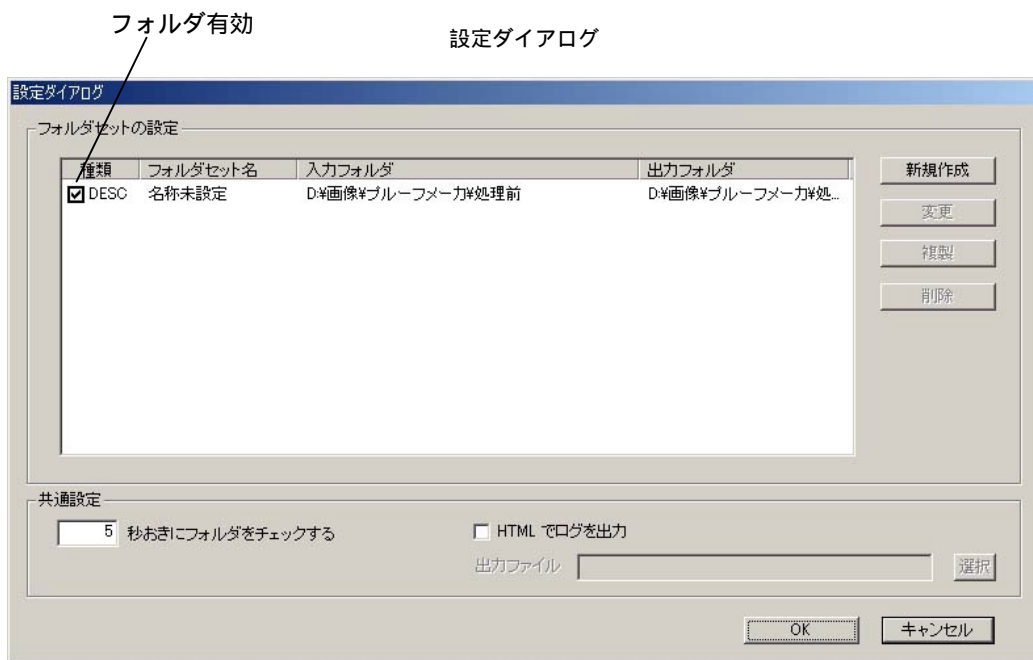
フォルダのチェックを一時的に停止させたり、再び実行させたりできます。

【情報（枠）】

リストのひとつをクリックして選択すると、関連の情報が表示されます。

3．設定ダイアログ

基本画面の「ファイルメニュー」から「設定」を選択すると、フォルダセットの登録などの設定を行う「設定ダイアログ」が表示されます



【フォルダセットのリスト】

現在設定されているフォルダセットが一覧表示されます。行をダブルクリックすると「フォルダセットの設定」ダイアログが開かれます。

各フォルダセットの左端に「フォルダ有効」チェックボックスがあり、チェックをした場合だけ有効なフォルダセットとなります。

【新規作成（ボタン）】

新しいフォルダセットを作成され、「フォルダセットの設定」ダイアログが開かれます。

【変更（ボタン）】

選択されているフォルダセットについての「フォルダセットの設定」ダイアログが開かれます。

【複製（ボタン）】

選択されているフォルダセットを複製します。名前も設定内容も同じ物ができますので、「変更」ボタンにより設定変更してください。

【削除（ボタン）】

選択されているフォルダセットを削除します。やり直しはできません。

【共通設定】

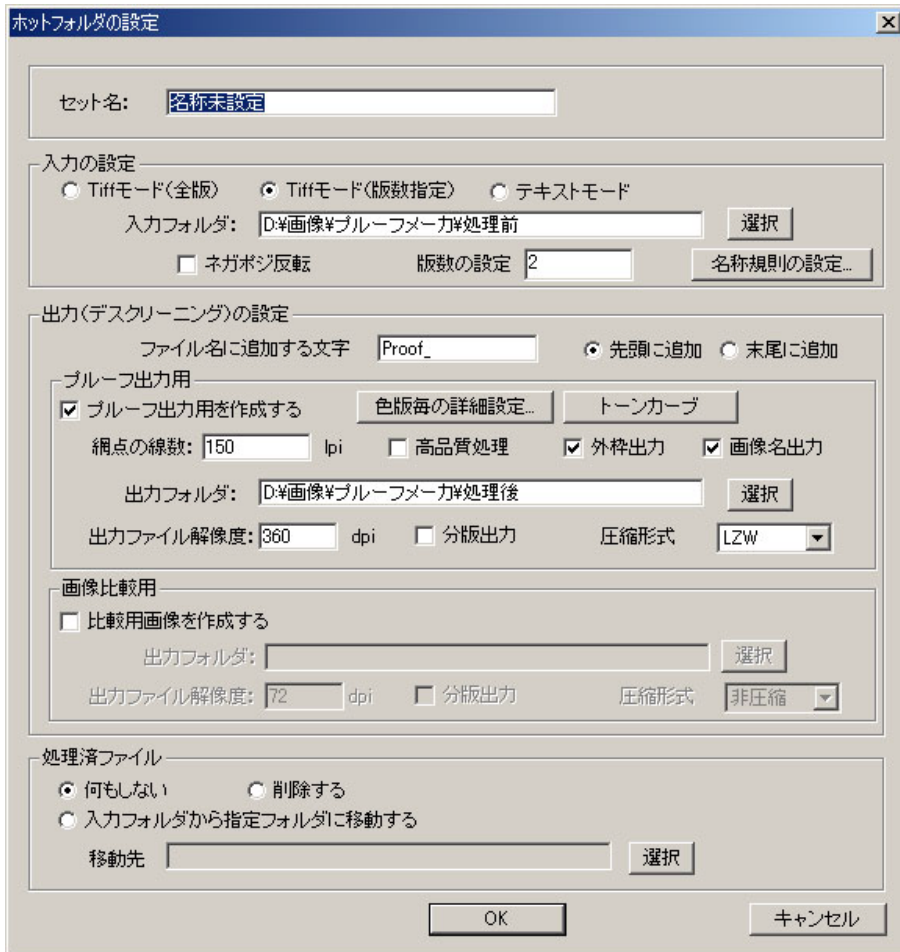
・ 秒おきにフォルダをチェックする

入力フォルダをチェックする間隔を指定します。基本画面で「一時停止」されたとき以外はこのタイミングでフォルダがチェックされます。

・ HTML でログ出力

ログファイルを HTML で書き出し、WWW ブラウザでログの確認をできるようにします。詳しい解説は「ログファイル」のところをご覧ください。

4 . フォルダセットの設定



「フォルダセットの設定」 ダイアログ

4 . 1 セット名

ユーザーが任意に設定できる名称です。入力フォルダに近い名前を設定しておくことが便利です。

4.2 入力の設定

【モード】

画像のデスクリーニングを行う版の指示方法を設定します。

1) Tiffモード(全版)

「色版の設定」で指定した色版が全て揃った場合、デスクリーニングを実行します。

2) Tiffモード(版数指定)

「色版の設定」で指定した色版の内、このダイアログ中の「版数の設定」で指定した数の版画揃った場合、デスクリーニングを実行します。(例えば、CMYK及び2版を指定すると、C,M版やM,K版など2版が揃えば処理)

3) テキストモード

「テキストモード」のチェックボックスにチェックをいれることで1Bit-Tiffではなく1ジョブ分のTiff情報を記入したテキストを読み込みプルーフ処理を行うことができます。

「入力フォルダ」の欄にテキストファイルのフォルダの場所を指定してください。

テキストモードは「名称規則と版数の設定」を設定する必要はありません。

テキストは以下の形式で1ジョブ分記入されています。

各パラメタ毎に、で区切りファイル名、色名は””で囲みます。

“ファイル名”,”色名”,色値(Cyan),色値(Magenta),色値(Yellow),色値(Black)

...

...

ファイル名：読み込む網点ファイルの画像ファイルのフルパス

色名：色の名称

色値(Cyan) : 0 ~ 255 まで

色値(Magenta) : 0 ~ 255 まで

色値(Yellow) : 0 ~ 255 まで

色値(Black) : 0 ~ 255 まで

例) ”NewPlate.txt”

_PlatePlanner_for_Package_V1.2_

“d:\画像\NewPlate_CYAN.tif”,”Cyan”,255,0,0,0

“d:\画像\NewPlate_MAGENTA.tif”,”Magenta”,0,255,0,0

“d:\画像\NewPlate_YELLOW.tif”,”Yellow”,0,0,255,0

“d:\画像\NewPlate_BLACK.tif”,”Black”,0,0,0,255

以下の場合、エラーとなります。

- ・ テキストに書かれたパス先に指定の Tif ファイルが無いとき
- ・ テキストのヘッダーが間違っているとき
- ・ ヘッダーのバージョンが対応していないとき

【入力フォルダ】

ファイルを「入力フォルダ」に移動またはコピーすることによって、自動的にプレビューを生成します。横の「選択」ボタンをクリックすると、フォルダ選択ダイアログが表示され入力フォルダを選択することが可能になります。入力フォルダ用のフォルダをあらかじめ用意している場合は、そのフォルダを選択します。入力フォルダを用意していない場合は、新規作成ボタンを押すことにより、その場でフォルダを作ると同時に、入力フォルダとして指定することができます。

【名称規則と版数の設定】



色版の設定をします。詳しい説明は第二章設定ダイアログのダイアログ項目の色版の設定 (p 27) を参照して下さい。

【ネガポジ反転】

ファイル情報に関係なく、網点画像がネガで作成されている場合にチェックマークをセットします。ポジのブルーフ画像が生成できます。

【版数の設定】

前記【モード】のテキストモードで使用します。

4.3 出力の設定

1) ファイルに追加する文字列

入力ファイル名にこの文字列が追加され出力ファイル名となります。

例えば入力ファイル名を「A 4パンフレット.tif」追加文字列を「Proof_」とすると

先頭に追加なら「Proof_A 4パンフレット.tif」

末尾に追加なら「A 4パンフレット Proof.tif」

となります。対象印刷機名などを追加文字列とすればファイル名で処理内容の管理ができます。

2) ブルーフ出力用

チェックボックスを ON にすると精度の高いブルーフ出力用画像を生成します。

【網点の線数】

入力画像の網点線数を設定することでモアレの少ないエッジのシャープなデスクリーニングを行います。インチ当たりの網点解像度で、例えば2400 dpiの網点画像に150線の網点線数を設定します。

【高品質処理】

ブルーフ画像上に現れる不要な幾何パターンを防ぎ、高品質な画像を得たい場合に選択します。

但し、選択しない場合に比べて処理時間がかかります。(1.5倍程度を目安として下さい。)

【外枠出力】

ブルーフ画像に黒の外枠を付けます。

【画像名出力】

プルーフ画像の下部に元画像名（版名も）、出力画像名、作成日時、網点の線数、出力ファイル解像度、高品質指定の有無（有の場合のみ “ High Q”の文字が付加）を出力します。

【出力フォルダ】

出力フォルダは生成されたプルーフ画像を保存していくフォルダです。設定方法は入力フォルダと同じです。

【出力ファイル解像度（dpi）】

出力ファイルの解像度を設定します。

【分版出力】

セパレーションファイルを作成したい場合にチェックします。生成する画像を各版毎にデスクリーニングしグレイスケールの画像を出力します。

【圧縮形式】

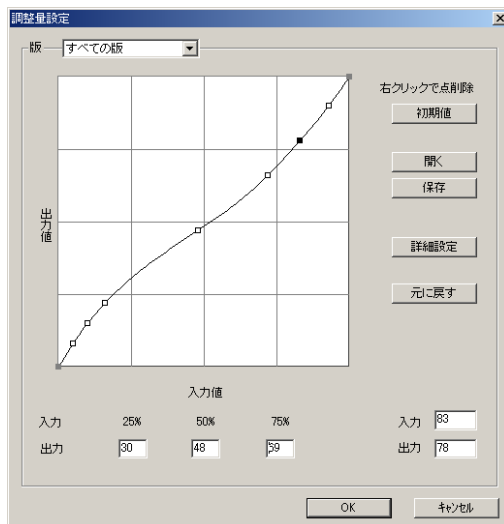
出力ファイルの圧縮形式を非圧縮、PackBits、LZW から選択します。

【トーンカーブ】

出力時の階調変換を曲線で設定できます。

(但し「分版出力」時は設定が無効になり階調は変換されません。)

曲線は入力階調値(デスクリーニング結果)に対する出力値として指定できます。



版



設定する版を選びます。「全ての版」と「名称規則と版数の設定」ダイアログで設定されたものが選択できます。「全ての版」を選択した場合、設定した曲線は各版に全て設定されます。但しこのダイアログを閉じた後、再度「全ての版」を選択しても前回の設定値は保存されていません。各版ごとには保存されていますので設定値を確認してください。

初期値

選択されている版の補正量を初期化(補正量0)します。「全ての版」が選択されている状態のときは全版を初期化します。

元に戻す

「元に戻す」ボタンを押すとトーンカーブへの変更を一度だけ元に戻すことができます。

点の削除

トーンカーブの設定ポイントはマウスの右クリックで削除できます。

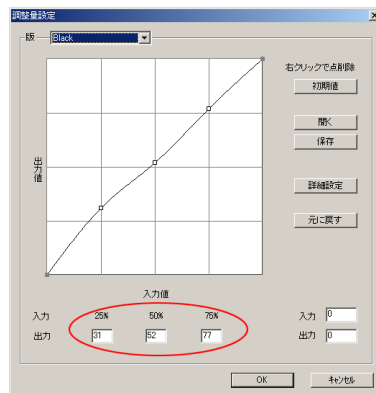
トーンカーブの設定

トーンカーブは下の方法で設定することができます。

- A．入力値 25、50、75% に対する出力値を数値指定する方法
- B．入力値と出力値を数値指定する方法
- C．トーンカーブの上をクリックまたはドラッグする方法
- D．タブ区切りで入力値、出力値を指定する方法

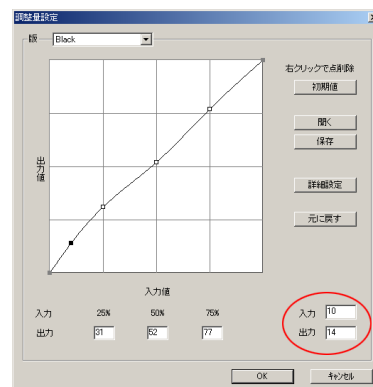
A . 入力値 25、50、75 % に対する出力値を数値指定する方法

右図の赤丸の中にあるテキストボックスに出力値を設定すると、自動的にトーンカーブに反映されます。



B . 入力値と出力値を数値指定する方法

右図の赤丸の中に入力値と出力値を設定すると、自動的にトーンカーブに反映されます。指定された入力値にトーンカーブのポイントが無い場合は自動的に追加され、すでに存在する場合は出力値が変更されます。



C . トーンカーブの上をクリックまたはドラッグする方法

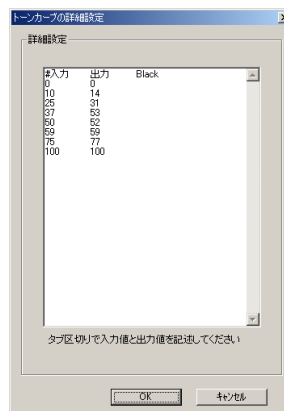
トーンカーブの一部をクリックしたとき、その入力値付近にポイントが存在すれば、そのポイントの現在値が「入力」「出力」のボックス内に表示されます。そのままポイントをドラッグする

ことでポイントの位置を変更していくことができます。ドラッグ中はそのポイントの現在値が「入力」「出力」のボックス内に表示されます。

クリックした入力値付近にポイントが存在しない場合は新たにポイントが生成されます。既存のポイントと同様にドラッグすることができます。

D. タブ区切りで入力値、出力値を指定する方法

「詳細設定」ボタンをクリックすると、右図のようなダイアログボックスが表示されますので入力値と出力値をタブ区切りで記述していきます。



例)

#入力	[Tab]	出力	[Tab]	Black	[Enter]
0	[Tab]	0	[Tab]	Black	[Enter]
20	[Tab]	18	[Tab]	Black	[Enter]
30	[Tab]	28	[Tab]	Black	[Enter]
50	[Tab]	50	[Tab]	Black	[Enter]
68	[Tab]	72	[Tab]	Black	[Enter]
82	[Tab]	86	[Tab]	Black	[Enter]
100	[Tab]	100	[Tab]	Black	[Enter]

入力値は0～100の範囲で101点まで設定できます。必ず小さい入力値が上に来るように順番に記述して下さい。

入力値、出力値ともに整数として扱われ、小数部分は無視されます。

ここで使用される書式と、後述のテキスト形式で保存された書式とは同じ形式になっていますので、保存されたデータの適切な版の部分のコピー & ペーストすることが可能です。

保存、開く

「保存」ボタンを押すと現在のトーンカーブを全版まとめて保存します。旧バージョンでは独自フォーマットの「.curve」という拡張子のファイルが生成されましたが、新しいバージョンでは「.txt」というテキストファイルとして出力する方法が追加され、こちらがデフォルトとして使用されます。旧バージョンの「.curve」形式も入出力できます。

テキストで出力した場合はタブ区切り文字列が版ごとに連続して記述されることになります。

テキスト保存の例)

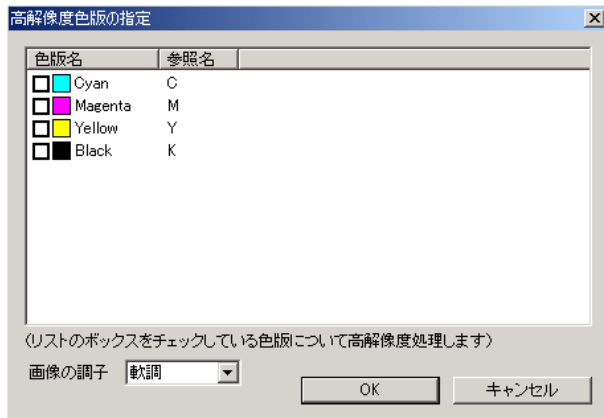
```
#入力 [Tab] 出力 [Tab]すべての版 [Enter]
0 [Tab] 0 [Enter]
100 [Tab] 100 [Enter]
#入力 [Tab] 出力 [Tab] Cyan [Enter]
0 [Tab] 0 [Enter]
25 [Tab] 31 [Enter]
50 [Tab] 52 [Enter]
75 [Tab] 77 [Enter]
100 [Tab] 100 [Enter]
#入力 [Tab] 出力 [Tab] Magenta [Enter]
0 [Tab] 0 [Enter]
13 [Tab] 21 [Enter]
26 [Tab] 34 [Enter]
50 [Tab] 45 [Enter]
100 [Tab] 100 [Enter]
#入力 [Tab] 出力 [Tab] Yellow [Enter]
0 [Tab] 0 [Enter]
25 [Tab] 31 [Enter]
77 [Tab] 87 [Enter]
100 [Tab] 100 [Enter]
#入力 [Tab] 出力 [Tab] Black [Enter]
0 [Tab] 0 [Enter]
10 [Tab] 14 [Enter]
37 [Tab] 53 [Enter]
59 [Tab] 59 [Enter]
100 [Tab] 100 [Enter]
```

「開く」ボタンを押して、過去に保存された「.txt」または「.curve」を指定すると読み込まれた値が反映されます。

OK、キャンセル

補正量を設定後「OK」により補正量が確定され、「キャンセル」では設定が無効となり前回の設定値が保たれます。

【色版毎の詳細設定】



色版毎に画像の調子を以下のいずれかに設定できます。

軟調(強)

軟調

軟調(弱)

標準

硬調(弱)

硬調

硬調(強)

固定調子(5)

固定調子(4)

固定調子(3)

固定調子(2)

固定調子(1)

エッジを際立たせたい時には「硬調(強)」、「硬調」、「硬調(弱)」、画像を柔らかい感じにしたい場合は「軟調強」、「軟調」、「軟調(弱)」を選択します。またサンプリング画素数を固定にする場合は「固定調子(5)」から「固定調子(1)」を選択します。固定調子の数が小さくなるほど硬調になります。

以上の設定をした後、対象となる色版名の横のチェックボックスを ON にします。チェックボックスが OFF または「標準」が選択された場合は【網点の線数】に応じた画像が生成されます。

3) 画像比較用

【出力フォルダ】

出力フォルダは生成された比較用画像を保存していくフォルダです。設定方法は入力フォルダと同じです。

【出力ファイル解像度 (dpi)】

出力ファイルの解像度を設定します。

【分版出力】

セパレーションファイルを作成したい場合にチェックします。

【圧縮形式】

出力ファイルの圧縮形式を非圧縮、PackBits、LZW から選択します。

4.4 処理済ファイル

【処理済ファイル (選択ラジオボタン)】

処理の済んだファイルをどうするかを以下の3つから指定します。

・何もしない

処理の終わった素材ファイル (処理済ファイル) を、入力フォルダにそのまま残します。

・入力フォルダから指定フォルダに移動する

移動先を設定すると、処理済ファイルを指定のフォルダに移動します。入力フォルダには素材ファイルは残りません。

「入力がフォルダのときは、同名のサブフォルダを作る」と書かれたチェックボックスにチェックをつけると、入力フォルダにフォルダごと素材を入れたとき、移動先フォルダにも同じフォルダ階層を作成して素材ファイルを移動します。詳しくは出力フォルダをご覧ください。

- ・削除する

処理済ファイルを削除していきます。どこにもファイルのコピーが残りませんのでご注意ください。

5 . HTML によるログファイルの出力

Proof Maker の処理状況をクライアントマシンの WWW ブラウザ (InternetExplorer、Netscape など) から見るすることができます。

設定方法

- 1、Proof Maker の「設定ダイアログ」でログの出力先を指定します。クライアントマシンからログを見るためには共有されたフォルダを指定します。OK ボタンを押した段階でログファイルが生成されます。
- 2、クライアントマシンの WWW ブラウザを起動し、生成されたログファイルをドラッグします (または、WWW ブラウザのメニューからファイルを指定します) 。
- 3、今後 2 の処理をしなくてすむように、WWW ブラウザの「お気に入り」に登録します。
(Netscape の場合はブックマークに登録)

トラブルシューティング

入力フォルダに入れたのに、プレビューが作成されない。

設定が正しいのにブルーフ画像が作成されない場合は、Proof Maker とおなじフォルダにある「HfJoblist.def」というファイルを削除してみてください。これにより、これまでに実行したファイルの情報が消されるので、入力フォルダにある全てのファイルプレビューを作成に行きます。